

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2012年第33週
(8月13日～8月19日)

- * 2012年8月22日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「川崎病」も記載しています。

平成24(2012)年8月23日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2012年33週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		30週	31週	32週	33週		33週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	85	98	85	78	2,906	357	18,346
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
三類	コレラ							3
	細菌性赤痢		3	4	2	45	4	130
	腸管出血性大腸菌感染症	7	10	9	14	124	238	2,062
	腸チフス					5	2	17
	パラチフス					5		11
四類	E型肝炎	1				11	1	84
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1			1	26	3	120
	エキノコックス症							6
	黄熱							
	オウム病							5
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							1
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱							4
	つつが虫病					3		194
	デング熱		1		3	24	7	95
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						7	61
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ポツリヌス症							3
マラリア			1		12		41	
野兔病								
ライム病						1	7	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症	2			2	37	12	526	
レプトスピラ症					3		8	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		30週	31週	32週	33週	年累計	33週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	3	3	7	3	110	8	549
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)		1			29	4	137
	急性脳炎 *2	2				20	3	250
	クリプトスポリジウム症					2		6
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1		1		9	1	115
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1		2		14		164
	後天性免疫不全症候群	8	7	12	6	290	14	874
	ジアルジア症					8	2	39
	髄膜炎菌性髄膜炎							7
	先天性風しん症候群							
	梅毒	5	4	8	3	171	8	528
	破傷風					3	1	67
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1			7	3	58
	風しん	37	31	24	28	289	88	1239
麻しん	7	6	2	3	58	6	225	
2012/8/22集計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 78件 肺結核 40件、その他の結核 12件、肺結核及びその他の結核 4件、無症状病原体保有者 20件、疑似症 2件、年齢は5歳未満 3件、10代 2件、20代 7件、30代 7件、40代 12件、50代 8件、60代 18件、70代 4件、80代 11件、90歳以上 6件、推定感染地は国内 72件、フィリピン 1件、ブラジル 1件、中国 1件、不明 3件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 2件 患者 2件、年齢は20代 1件、50代 1件、菌種はソネ 2件、推定感染地はインドネシア 2件、推定感染経路は経口感染 2件であった。

腸管出血性大腸菌感染症 14件 患者 11件(うちHUS 3件)、無症状病原体保有者 3件、血清型・毒素型はO157 VT1・VT2 8件、O157 VT2 3件、O157 VT(型不明) 2件、血清でのO抗原凝集抗体の検出 1件、年齢は5～9歳 3件、10代 2件、20代 4件、40代 1件、50代 1件、60代 2件、80代 1件、推定感染地は国内 11件、インドネシア 2件、ベトナム 1件、推定感染経路は経口感染 9件、接触感染 1件、経口及びその他(不明) 1件、その他(不明) 3件であった。O157 VT1・VT2のうち2事例で旅行歴があり、推定感染地は北海道であった。

〈四類感染症〉

A型肝炎 1件 患者、年齢は30代、推定感染地はタイ、推定感染経路は経口感染であった。

デング熱 3件 患者 3件、年齢は20代 1件、30代 1件、50代 1件、推定感染地はタイ 1件、バングラデシュ 1件、カンボジア及びシンガポール 1件であった。

レジオネラ症 2件 肺炎型 2件、年齢は50代 1件、70代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は水系感染 1件、その他(不明) 1件であった。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 3件 腸管 3件、年齢は30代 1件、40代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は性的接触(異性間) 1件、その他(不明) 2件であった。

後天性免疫不全症候群 6件 無症候キャリア 6件、年齢は20代 1件、30代 2件、40代 2件、60代 1件、推定感染地は国内 6件、推定感染経路は性的接触 6件(同性間 4件、異性間 2件)であった。

梅毒 3件 早期顕症梅毒 I 期 2件、晩期顕症梅毒 1件、年齢は30代 2件、40代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は性的接触 3件(同性間 2件、異性間 1件)であった。

風しん 28件 検査診断例 21件、臨床診断例 7件、年齢は20代 9件、30代 9件、40代 8件、50代 2件、推定感染地は国内 28件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 14件、接触感染 1件、その他 13件、風しん含有ワクチン接種歴は1回接種 3件、接種なし 7件、不明 18件であった。

麻しん 3件 臨床診断例 2件、検査診断例 1件、年齢は10代 1件、20代 1件、30代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は接触感染 2件、その他 1件、麻しん含有ワクチン接種歴は1回接種 2件、不明 1件であった。

※ 第32週で報告のあった、〔五類〕麻しん 1件は削除された。

※ 第28週該当分として、〔五類〕風しん 2件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2012年33週

定点種別	対象疾患	2012年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		30週	31週	32週	33週	定点当たり		
小児科	RSウイルス感染症	61	69	117	106	0.49	218	264
	咽頭結膜熱	167	152	110	80	0.37		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	388	287	203	140	0.64		
	感染性胃腸炎	1,052	982	828	523	2.40		
	水痘	175	129	113	63	0.29		
	手足口病	333	308	244	121	0.56		
	伝染性紅斑	33	21	13	10	0.05		
	突発性発しん	205	197	167	91	0.42		
	百日咳	6	5	3	3	0.01		
	ヘルパンギーナ	2,010	1,412	825	277	1.27		
	流行性耳下腺炎	77	59	63	39	0.18		
	川崎病(注1)	3		5	1	0.00		
	不明発しん症(注1)	51	55	40	26	0.12		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	6	5	5	4	0.01	361	419
眼科	急性出血性結膜炎		3	1	1	0.03	36	39
	流行性角結膜炎	23	27	22	12	0.33		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	2	3	3			24	25
	無菌性髄膜炎	4	3	4	6	0.25		
	マイコプラズマ肺炎	22	6	17	9	0.38		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)			1	1	0.04		
	インフルエンザ入院(注4)		2					

2012/8/22集計

(注1) 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザを除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

(注4) 2011年36週より開始

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ ヘルパンギーナの定点当たり報告数は先週からさらに減少した。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は微増した。

(小児科・内科定点医療機関からのコメント)

台東区

- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は親と子供2人(3歳児、6歳児)で同時感染。

世田谷区

- ・ アデノウイルス迅速キット陽性 1名。

中野区

- ・ 乳幼児施設でRSウイルス感染症がまん延しています。

荒川区

- ・ RSウイルス感染症が増えています。
- ・ 病原性大腸菌O1、O6、O8、O25、O44 各1名、カンピロバクター 2名。

八王子市

- ・ 咽頭結膜熱4名中、アデノウイルス 3名(2歳児、3歳児、5歳児)。

多摩小平

- ・ マイコプラズマ肺炎 3名。
- ・ 感染性胃腸炎8名中、病原性大腸菌 7名、ノロウイルス 1名。
- ・ 溶連菌感染症、感染性胃腸炎の患者が多い。

島しょ

- ・ 水痘は内地の患者。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2012年33週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～6か月	5	2		6	1	2		3		4
～1歳	26	3		41	1	10		29		30
1歳	47	11	4	93	5	34	2	43	1	79
2歳	20	11	12	50	12	21		9		48
3歳	3	8	14	53	16	25	1	3		31
4歳	4	9	18	43	12	10	4	4		29
5歳		13	14	37	7	6	1			23
6歳		7	11	31	2	4				10
7歳			13	19		5	1			4
8歳		5	12	20	2					5
9歳		2	7	18	2	1				2
10～14歳		1	17	45	1	2	1			8
15～19歳			3	10						1
20～29歳	1	8	15	57	2	1			2	3
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	106	80	140	523	63	121	10	91	3	277
先週比	-11	-30	-63	-305	-50	-123	-3	-76		-548

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～6か月			1			
～1歳			1			
1歳	1	1	6			
2歳	2		2			1
3歳	6		5			
4歳	6		2			
5歳	4		3			1
6歳	5		1			
7歳	3		1			
8歳	3		1			
9歳	4		1	1		
10～14歳	5			1		
15～19歳						
20～29歳			2		1	3
30～39歳						5
40～49歳						
50～59歳				1		1
60～69歳				1		
70～79歳						1
80歳以上						
合計	39	1	26	4	1	12
先週比	-24	-4	-14	-1		-10

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2012年33週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		1
20～29歳	9	1
30～39歳	9	1
40～49歳	8	
50～59歳	2	
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	28	3

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2012年33週

定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田			1			1	1	1		
中央区	1									
みなと	5	9	1	16				6	2	4
新宿区	22	2	14	6		4		2		8
文京		1	1	3		4	1	1		3
台東	1		5	5						
墨田区	1					2				1
江東区	7		4	49	4	18		7		9
品川区	4		4	19	3	3		1		10
目黒区				9				1		3
大田区	10	13	9	42	2	5		5	1	3
世田谷	11	2	15	39	6	4	2	7		16
渋谷区		1	1	3	1			1		6
中野区	4		8	38	6	2		4		12
杉並	1	3	1	6				5		1
池袋		3		3	2	1				11
北区				3		2		1		2
荒川区	6	4	1	5	2	6		1		2
板橋区	1	3	2	8	1	4		1		3
練馬区	1	1	1	8	1	3		3		7
足立	1	1	8	36	6	16		11		13
葛飾区	1		1	17	2	9		1		10
江戸川		5	8	38	1	5	1	3		8
八王子市	4	4	15	45	4	2	3	3		16
町田市		12	14	44	8	12		7		35
西多摩	1	4	1	6	1	1		1		7
南多摩	6		2	13	3	3		3		23
多摩立川	1	6	9	12	5	2				8
多摩府中	5	2	2	22	3	2		7		12
多摩小平	12	4	12	28	1	7	2	8		43
島しょ					1	3				1
東京都合計	106	80	140	523	63	121	10	91	3	277

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2012年33週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田			1			
中央区						2
みなと	2					
新宿区		1				1
文京						1
台東						
墨田区						
江東区	1					
品川区						
目黒区						
大田区	5		6			
世田谷	4		1			
渋谷区	1					2
中野区				1		
杉並						
池袋	1					
北区	1					
荒川区				2		
板橋区			1			
練馬区	1					
足立	2		2		1	1
葛飾区	2		2			
江戸川	1		1			
八王子市	8		1			5
町田市	5		6			
西多摩	2					
南多摩			2			
多摩立川	2		1			
多摩府中	1			1		
多摩小平			2			
島しょ						

東京都合計	39	1	26	4	1	12
-------	----	---	----	---	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと	1	
新宿区	2	
文京	2	1
台東		
墨田区	4	
江東区	2	1
品川区	1	
目黒区		
大田区	4	
世田谷		
渋谷区	1	
中野区	3	
杉並	1	
池袋	2	
北区		
荒川区	1	1
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川	1	
八王子市		
町田市		
西多摩		
南多摩		
多摩立川		
多摩府中	2	
多摩小平	1	
島しょ		

東京都合計	28	3
-------	----	---

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2012年33週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田			0.33			0.33	0.33	0.33		
中央区	0.33									
みなと	1.25	2.25	0.25	4.00				1.50	0.50	1.00
新宿区	3.14	0.29	2.00	0.86		0.57		0.29		1.14
文京		0.25	0.25	0.75		1.00	0.25	0.25		0.75
台東	0.25		1.25	1.25						
墨田区	0.25					0.50				0.25
江東区	0.78		0.44	5.44	0.44	2.00		0.78		1.00
品川区	0.57		0.57	2.71	0.43	0.43		0.14		1.43
目黒区				1.80				0.20		0.60
大田区	0.91	1.18	0.82	3.82	0.18	0.45		0.45	0.09	0.27
世田谷	1.00	0.18	1.36	3.55	0.55	0.36	0.18	0.64		1.45
渋谷区		0.25	0.25	0.75	0.25			0.25		1.50
中野区	0.57		1.14	5.43	0.86	0.29		0.57		1.71
杉並	0.20	0.60	0.20	1.20				1.00		0.20
池袋		0.60		0.60	0.40	0.20				2.20
北区				0.60		0.40		0.20		0.40
荒川区	2.00	1.33	0.33	1.67	0.67	2.00		0.33		0.67
板橋区	0.14	0.43	0.29	1.14	0.14	0.57		0.14		0.43
練馬区	0.17	0.17	0.17	1.33	0.17	0.50		0.50		1.17
足立	0.13	0.13	1.00	4.50	0.75	2.00		1.38		1.63
葛飾区	0.13		0.13	2.13	0.25	1.13		0.13		1.25
江戸川		0.45	0.73	3.45	0.09	0.45	0.09	0.27		0.73
八王子市	0.44	0.44	1.67	5.00	0.44	0.22	0.33	0.33		1.78
町田市		1.71	2.00	6.29	1.14	1.71		1.00		5.00
西多摩	0.13	0.50	0.13	0.75	0.13	0.13		0.13		0.88
南多摩	1.00		0.33	2.17	0.50	0.50		0.50		3.83
多摩立川	0.07	0.43	0.64	0.86	0.36	0.14				0.57
多摩府中	0.29	0.12	0.12	1.29	0.18	0.12		0.41		0.71
多摩小平	0.80	0.27	0.80	1.87	0.07	0.47	0.13	0.53		2.87
島しょ					1.00	3.00				1.00

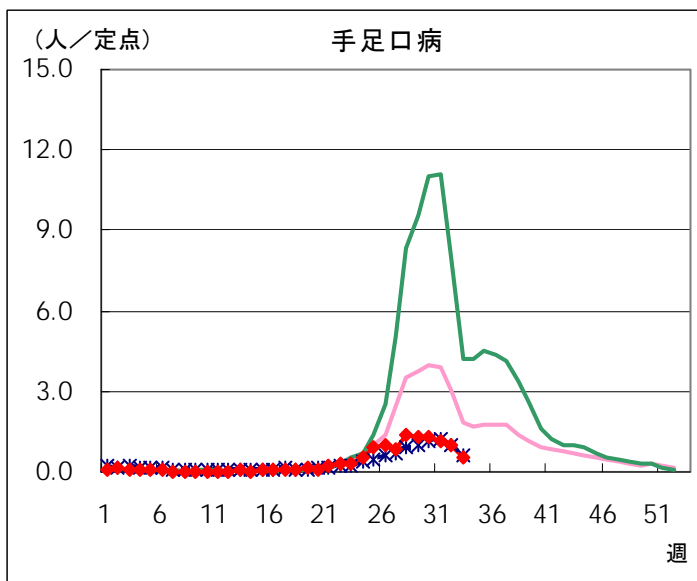
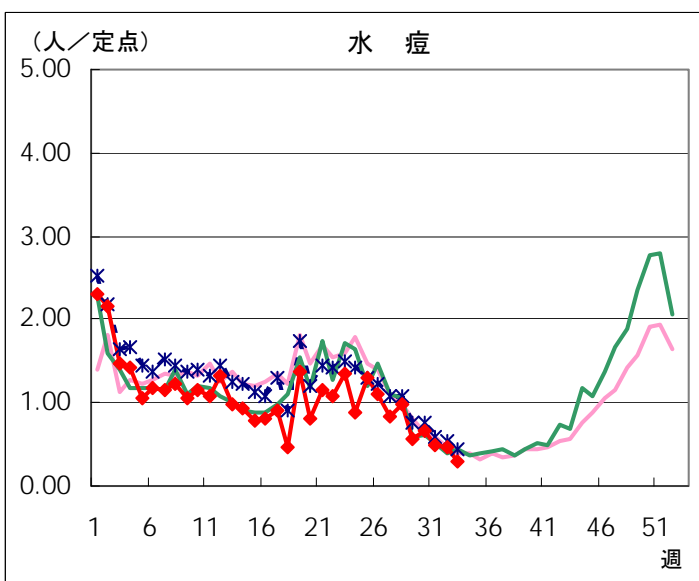
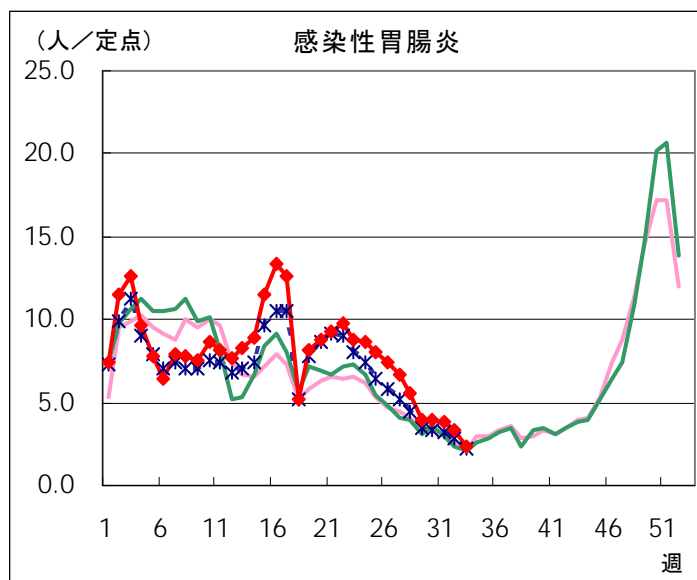
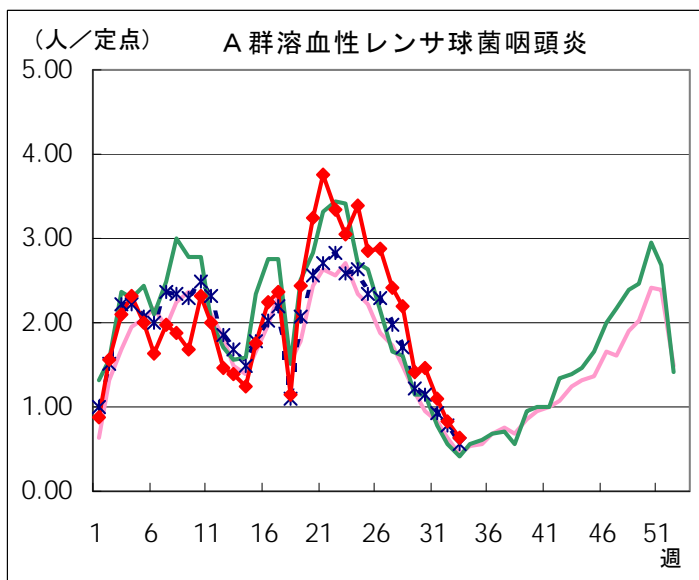
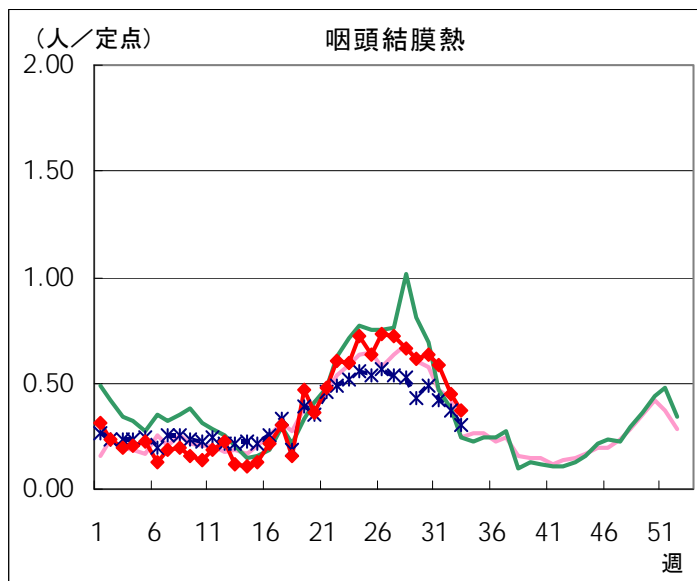
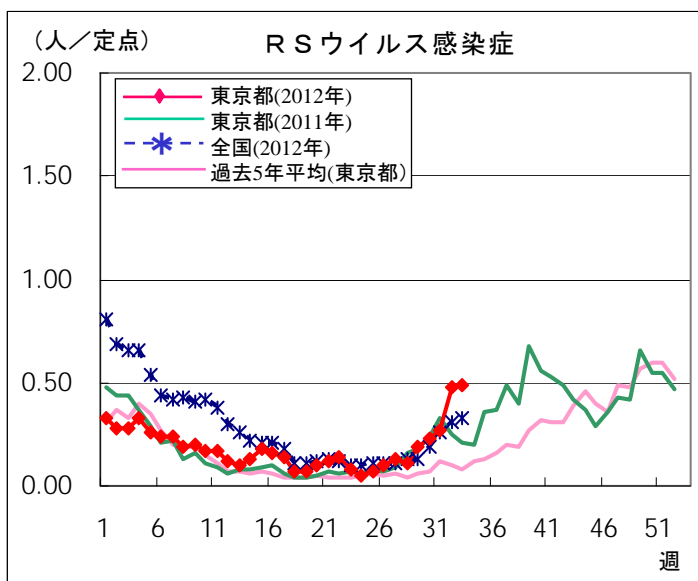
東京都	0.49	0.37	0.64	2.40	0.29	0.56	0.05	0.42	0.01	1.27
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

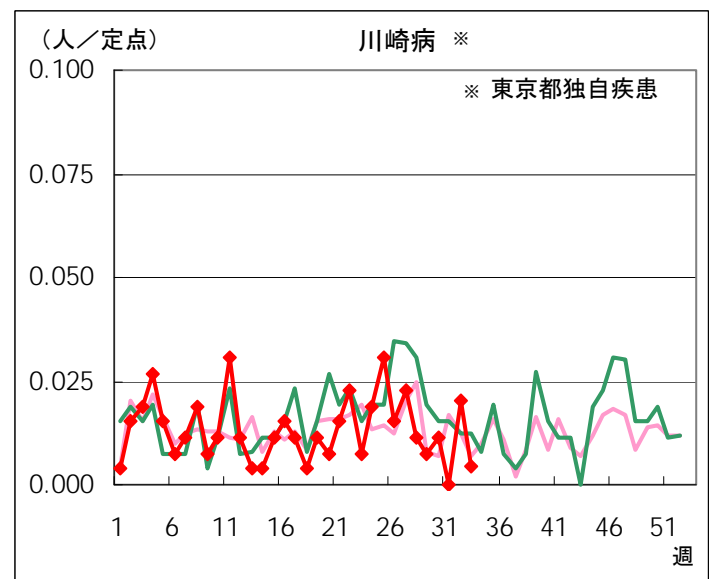
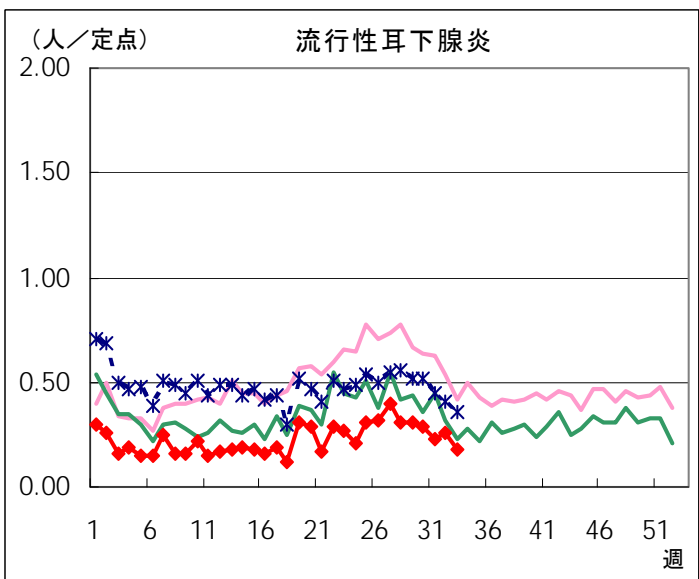
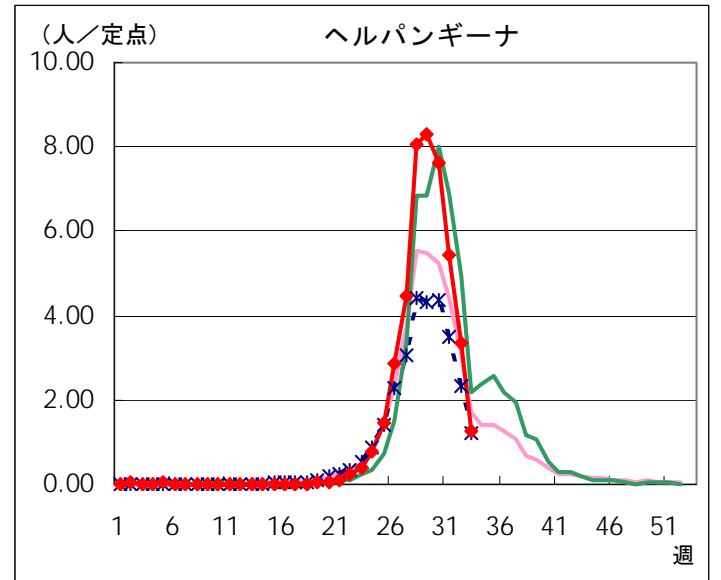
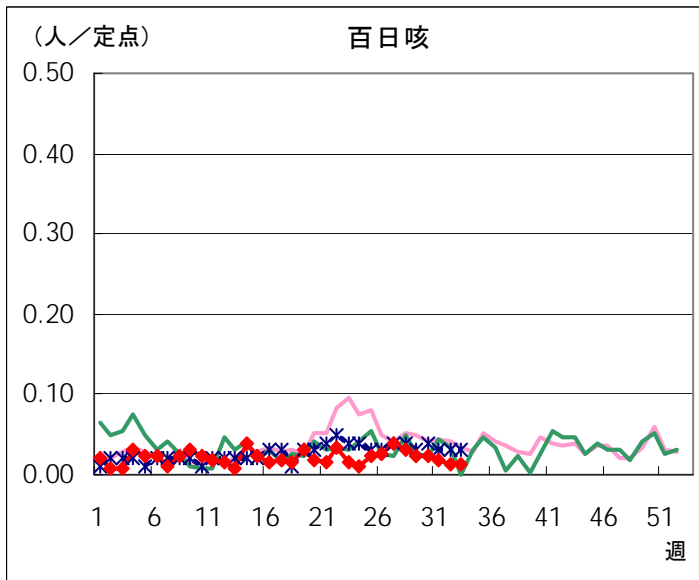
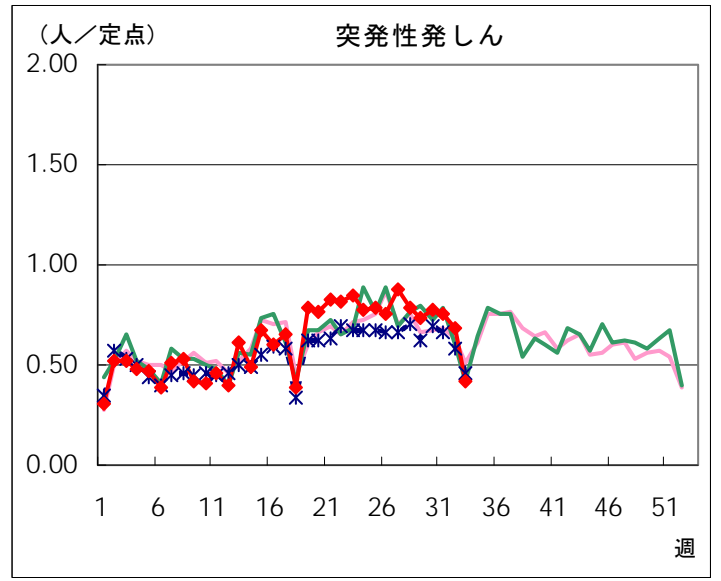
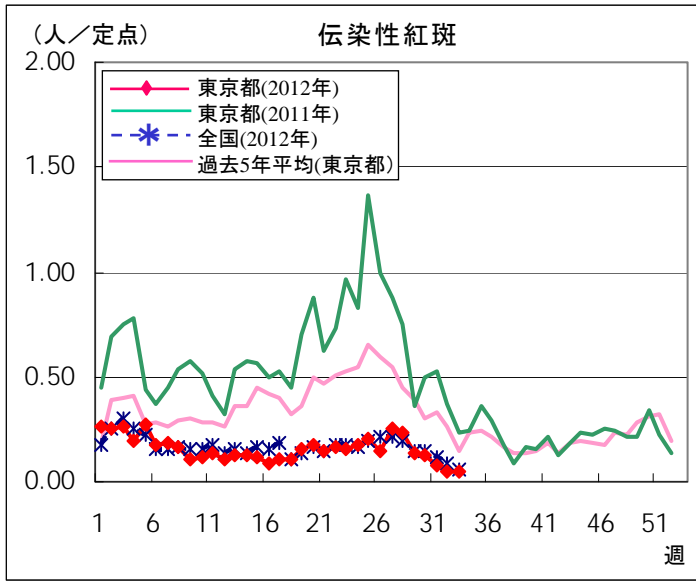
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田			0.33			
中央区						2.00
みなと	0.50					
新宿区		0.14				0.50
文京						1.00
台東						
墨田区						
江東区	0.11					
品川区						
目黒区						
大田区	0.45		0.55			
世田谷	0.36		0.09			
渋谷区	0.25					2.00
中野区				0.09		
杉並						
池袋	0.20					
北区	0.20					
荒川区				0.33		
板橋区			0.14			
練馬区	0.17					
足立	0.25		0.25		0.50	0.50
葛飾区	0.25		0.25			
江戸川	0.09		0.09			
八王子市	0.89		0.11			2.50
町田市	0.71		0.86			
西多摩	0.25					
南多摩			0.33			
多摩立川	0.14		0.07			
多摩府中	0.06			0.04		
多摩小平			0.13			
島しょ						

東京都	0.18	0.00	0.12	0.01	0.03	0.33
-----	------	------	------	------	------	------

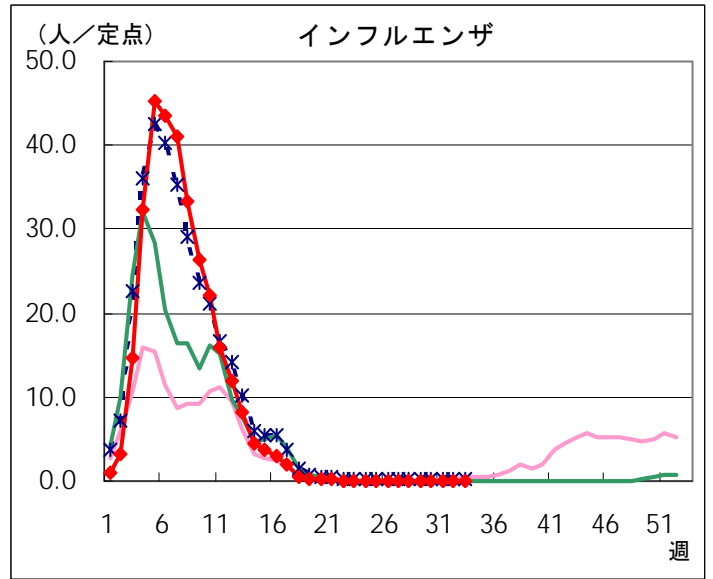
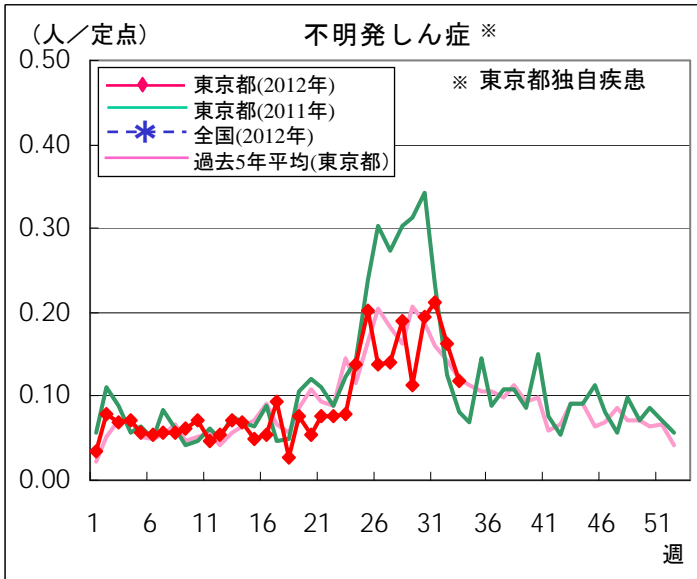
定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2012年33週現在

◆ 小児科定点

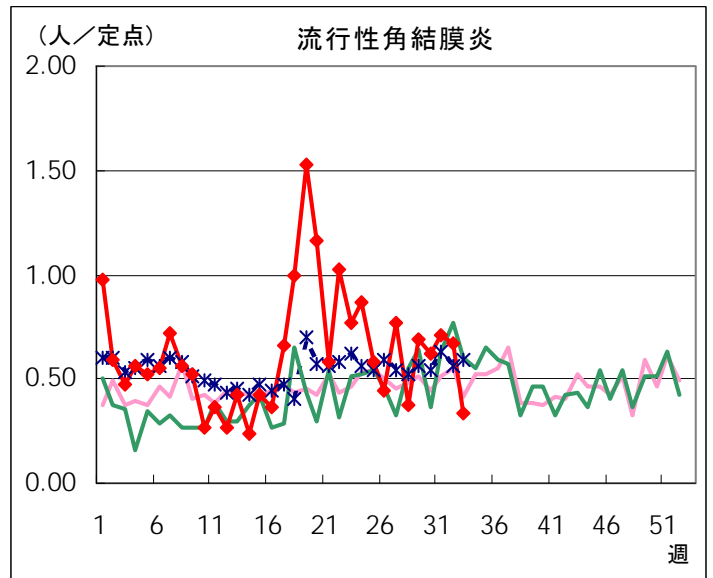
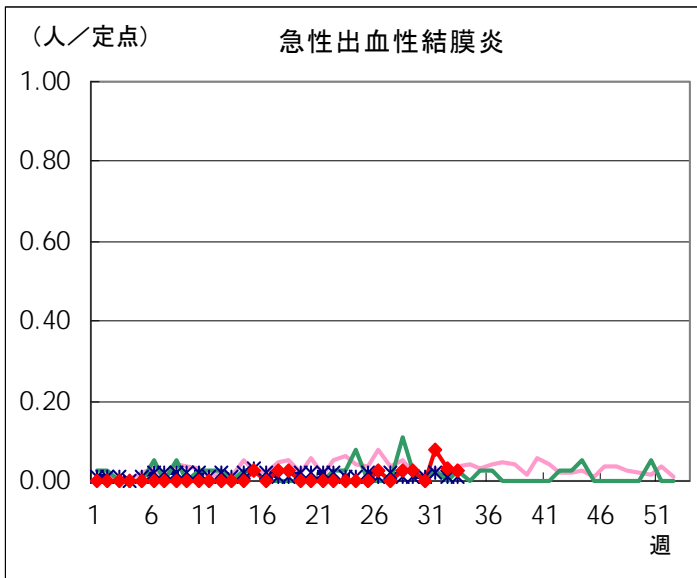




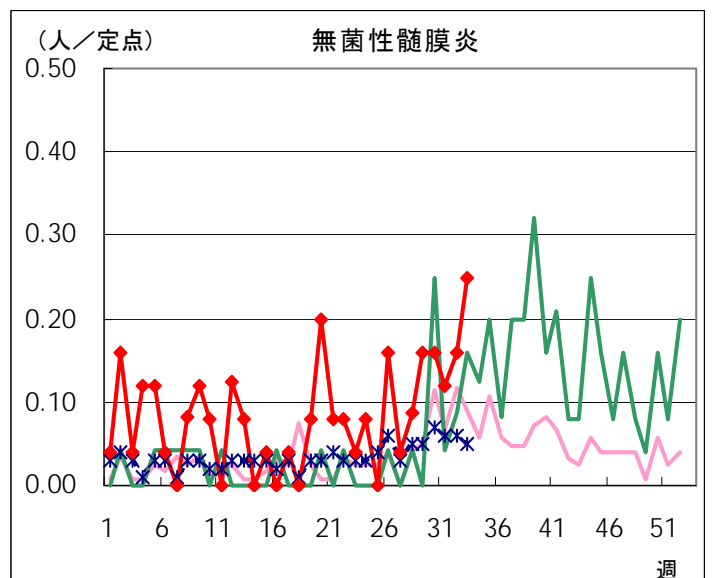
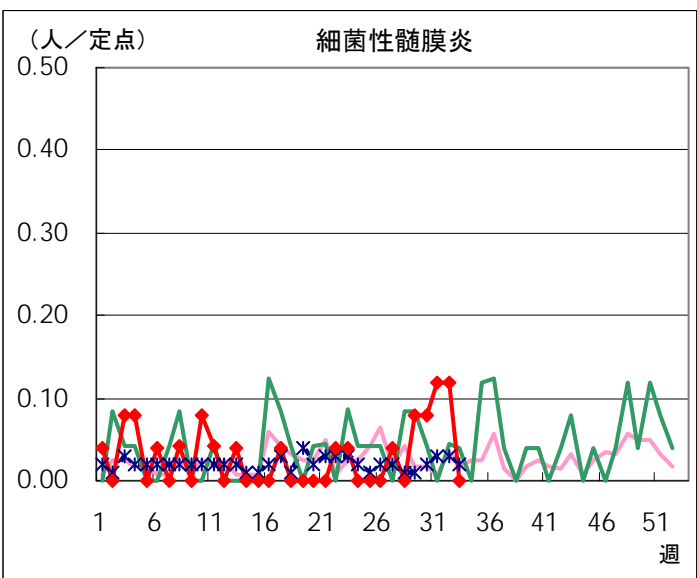
◆ インフルエンザ定点

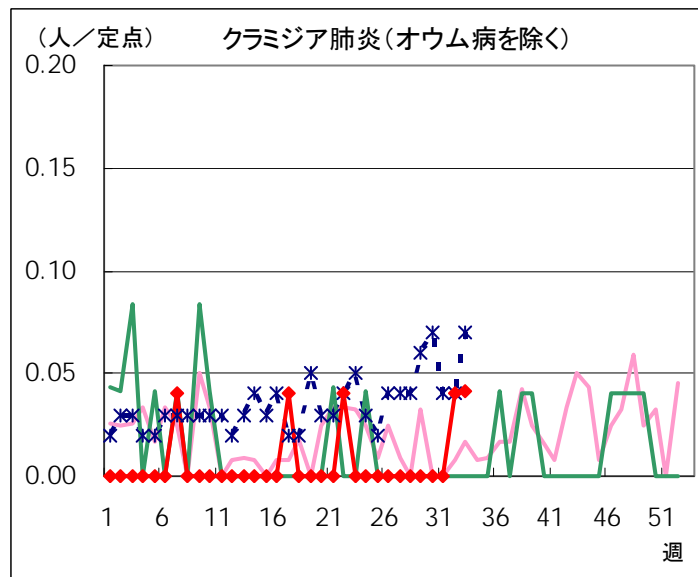
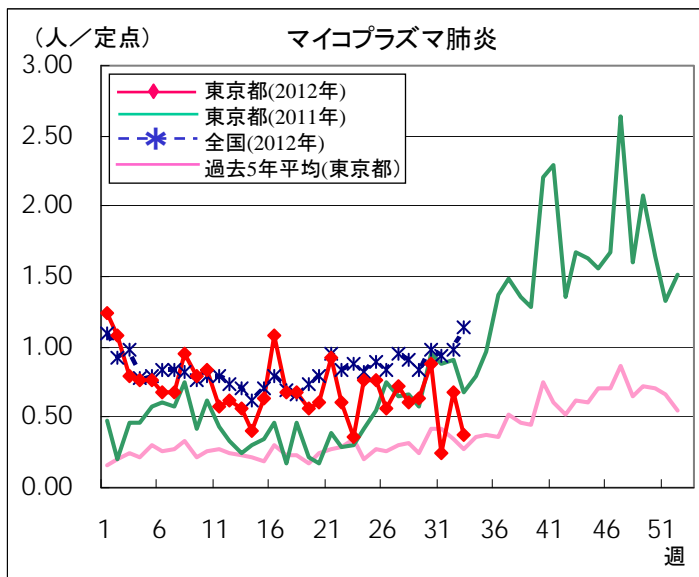


◆ 眼科定点

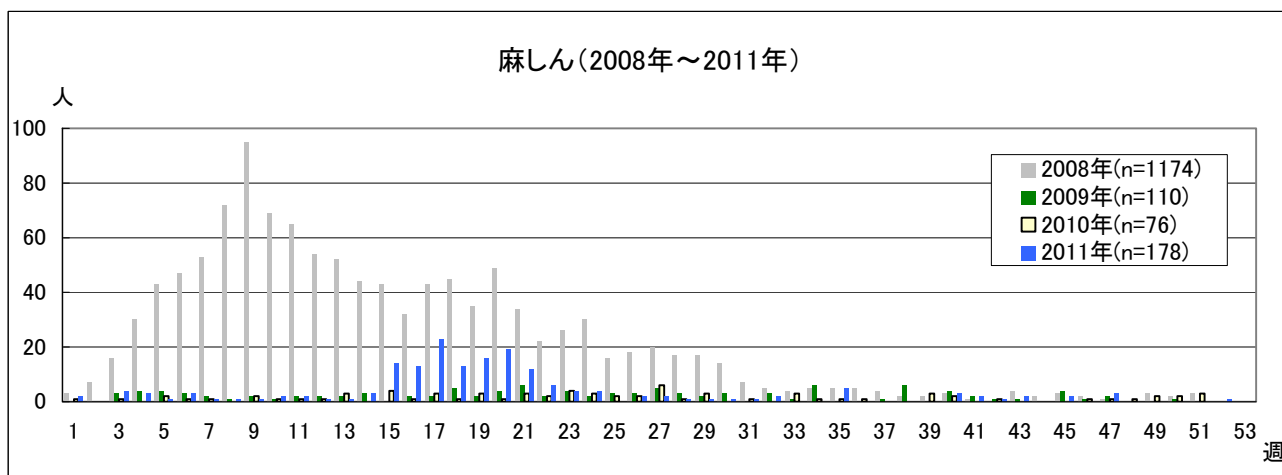
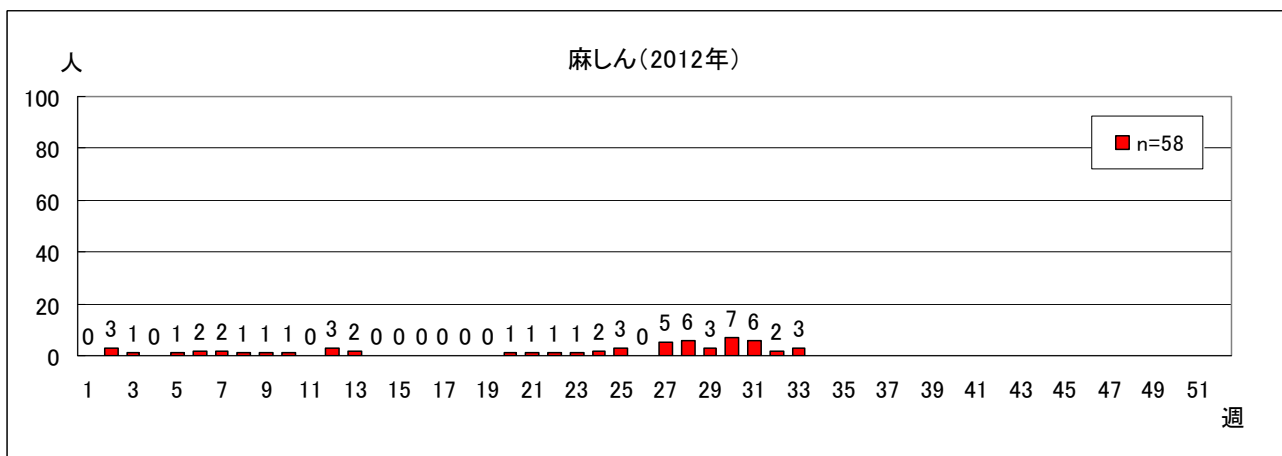


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2012年33週現在



定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
8/6	RSウイルス感染症	4M	鼻汁	RSウイルス	遺伝子
8/6	RSウイルス性気管支炎	5M	鼻汁	RSウイルス	
8/6	咽頭炎、喉頭炎	10M	咽頭拭い液	RSウイルス、エンテロウイルス パラインフルエンザウイルス 3型	
8/6	急性脳炎	10M	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス 6型・7型	
8/4	突発性発しん	11M	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/3	急性咽頭炎	1	咽頭拭い液	RSウイルス	
8/6	喘息性気管支炎	1	鼻汁	RSウイルス、ライノウイルス	
8/1	夏風邪(不明発しん症)	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス 6型	
8/1	不明熱	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス 6型・7型	
8/5	無菌性髄膜炎	1	髄液	ムンプスウイルス	
7/26	肝機能障害	2	咽頭拭い液	EBウイルス	
8/6	肝機能障害	2	咽頭拭い液	EBウイルス、エンテロウイルス	
8/3	夏風邪(口内炎)	2	咽頭拭い液	EBウイルス、エンテロウイルス	
8/6	ヘルパンギーナ	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/10	ヘルペスウイルス性口内炎	2	咽頭拭い液	単純ヘルペスウイルス 1型	
8/9	無菌性髄膜炎	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/7	咽頭炎	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/8	高熱	3	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス 1型	
8/6	ヘルパンギーナ	3	咽頭拭い液	EBウイルス、エンテロウイルス	
8/3	ヘルパンギーナ、咽頭炎	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/8	高熱	4	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス 1型	
7/31	手足口病	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/6	手足口病	4	咽頭拭い液	アデノウイルス、エンテロウイルス	
8/6	急性扁桃咽頭炎	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/2	流行性角結膜炎	5	結膜拭い液	アデノウイルス	
8/3	手足口病	7	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/6	伝染性単核球症	9	咽頭拭い液	EBウイルス、エンテロウイルス	
8/1	流行性角結膜炎	29	結膜拭い液	アデノウイルス	
8/6	咽頭扁桃炎	30	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/8	インフルエンザ様疾患(発熱)	32	咽頭拭い液	エンテロウイルスA種	

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

※「32週」は全て0件でした。

検出件数	AH1pdm09*型	AH1型	AH3型	B型
32週**				
2011-2012年 シーズン累計**	1		223	137

* 2011年4月1日から新型インフルエンザ(AH1N1pdm)が季節性インフルエンザに移行されたため、表記を AH1pdm09 とします。

** 2011-2012シーズンの開始は第36週(2011年9月5日～)

病原体検査情報 【検出病原体別・週別】

検出病原体		2012年							
		25週	26週	27週	28週	29週	30週	31週	32週
ウイルス	アデノウイルス	4	5	2	3		3		3
	ライノウイルス	1	5	2	1	1		1	1
	ポリオウイルス	1							
	コクサッキーウイルスA群	3			1		1		
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	1	13	4	26	19	17	7	19
	単純ヘルペスウイルス				1	1			1
	水痘・帯状疱疹ウイルス		1						
	ヘルペスウイルス6/7	2	2	3	14	5	2	3	5
	EBウイルス	1	1			5	2		5
	サイトメガロウイルス	1	1					3	
	ムンプスウイルス					2		1	1
	麻疹ウイルス				1	2		1	
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19	1							
	RSウイルス		1	2				1	5
	ノロウイルス			2					
	ロタウイルス								
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3						3	1	
	インフルエンザウイルスB								
	インフルエンザウイルスAH1pdm09								
	デングウイルス(抗体を含む)								
その他のウイルス	3	3	3	6	8	2	2	3	
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌								
	百日咳								
	マイコプラズマ								
	その他の細菌								
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2012年25週～2012年32週

臨床診断名 検出病原体		インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	へ ル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数		5	45	42	15	41	13		7	25	10		36	6		3		68	
ウ イ ル ス	アデノウイルス		6		2		3		2		3		4						
	ライノウイルス	1	2	3			2						3					1	
	ポリオウイルス		1																
	コクサッキーウイルスA群		2							1	1							1	
	コクサッキーウイルスB群																		
	エコーウイルス																		
	エンテロウイルス71																		
	その他のエンテロウイルス	1	18	11		6	5		2	23	6		12	1		1		20	
	単純ヘルペスウイルス					1							1						1
	水痘・帯状疱疹しんウイルス																		1
	ヘルペスウイルス6/7		3				1				2		13			1		16	
	EBウイルス					1				4			1	1					7
	サイトメガロウイルス		2	1									1	1					
	ムンプスウイルス					3								1					
	麻疹ウイルス												3			1			
	風しんウイルス																		
	パルボウイルスB19													1					
	RSウイルス		3	6															
	ノロウイルス				2														
	ロタウイルス																		
インフルエンザウイルスAH1																			
インフルエンザウイルスAH3	4																		
インフルエンザウイルスB																			
インフルエンザウイルスAH1pdm09																			
デングウイルス (抗体を含む)																			
その他のウイルス		8	14	1		3			1				1					2	
細 菌	カンピロバクター																		
	サルモネラ																		
	腸管出血性大腸菌																		
	その他の腸管系病原菌																		
	溶血性レンサ球菌																		
	百日咳																		
	マイコプラズマ																		
	その他の細菌																		
その他の病原体																			

<感染症豆知識>

川崎病

川崎病は1967年川崎富作先生により報告されて以来、40年以上経ち疫学的には季節的流行、局所的流行が観察されている。80%は4歳以下、乳児早期はまれ、生後9～11ヶ月がピークで、その後徐々に低下するという特徴はあるが、原因についてはウイルス原因説を含め諸説あるものの未だ特定されておらず特異的な診断方法はない。6つの主要症状と8つの参考条項で厚生労働省研究班が診断の手引きとしてまとめたものを現在使用している。川崎病は冠動脈拡大病変を合併する特異性があり、冠動脈拡張が認められるのは平均10病日であるので9病日以前に炎症を抑える必要がある。1983年古庄らが川崎病の急性期に免疫グロブリン大量点滴静注法が使用されてから無治療の際に観察されていた25～30%の冠動脈病変が5～8%まで減少するという顕著な効果がみられた。しかし免疫グロブリン開始48時間以後も37.5以上の発熱が続く、いわゆる不応例や一旦解熱後に再発熱する再燃例が10～20%存在し、冠動脈病変合併例の大部分がこれら免疫グロブリン抵抗例に含まれるので、この抵抗例を予測するモデル（群馬、久留米、大阪、横浜）が提唱されている。これらの結果から免疫抑制剤や抗サイトカイン抗体（インフリキシマブ）などが初期治療や追加治療として導入され効果を上げている。川崎病のもうひとつの課題は遠隔期である長期予後の問題点である。最初の報告以来、約40年以上経っているので冠動脈後遺症の長期予後において動脈硬化のリスクファクターになるのか否か、小児科の枠を超えて循環器内科医と共に観察、調査する必要がある。

（文責 沼口小児科 沼口俊介）